

自己評価 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:(できていない)<80

●達成度は、25年度目標値に対する平成26年1月末の評価値で算出

●24年度評価値欄の斜線は、評価指標の変更に伴い年度比較が不可能であることを意味する

評価計画							自己評価					学校関係者評価		
学校が果たす役割	中期経営目標	短期経営目標	担当	目標達成のための方策	評価指標	25年度目標値	24年度	25年度	達成度	評価	結果(課題)と改善方策について	評価値の元データ	評価	コメント
							評価値	評価値						
確かな学力の育成	基礎学力の定着	望ましい学習習慣の形成	教務	望ましい学習習慣の形成と学力の向上 ①授業の始めと終わりの時間厳守、挨拶の徹底と、望ましい授業態度の育成 ②適切な課題による家庭学習の習慣化	(1)望ましい授業態度が身に付いている生徒の割合	95%	95%	98%	103%	A	(1)どのクラスも落ち着いた授業態度である。この雰囲気を保てるよう引き続き指導していきたい。	生徒アンケート①と②	A ・資格取得者数の減少のみでなく、主体的に取り組む生徒の減少傾向は残念である ・資格取得者を増やす対策を考えてほしい B ・資格取得の大切さ、将来の可能性について保護者に伝え、保護者からも生徒に働きかけることが大事である A ・社会において資格を活かすことと、同時に「社会に貢献する心」を持たせてほしい B ・生徒に目標設定させ、チャレンジする気概を持たせて、自分の能力を精一杯発揮することの大切さを教えてほしい ・図書館で司書と生徒達が一体となって改善に取り組まれたことで、良い成果が生まれたと思われる	
					(2)課題等を提出している生徒の割合	90%	86%	88%	98%	B	(2)昨年度より提出率は上がったが、家庭学習の習慣化や学力向上には十分結びついていない。引き続き、質の向上につながる指導を検討していく必要がある。	校内統計		
		個に応じた教育の推進	教務	TT及び個別指導の実施 ①TT・少人数指導の効果的な実施 ②個別指導の充実	(3)教材や教え方が工夫されていて、授業内容が理解しやすいと感じている生徒の割合	85%	斜線	84%	99%	B	(3)全教員の共通理解のもとに、すべての生徒が満足できる授業を目指して、教材研究や授業研究に取り組んでいきたい。	生徒アンケート⑥		
		読書習慣の育成	図書	読書への意欲喚起 ①利用しやすい雰囲気作り ②図書購入リストの実施 ③「図書館だより」の充実 ④朝読書の支援	(4)読書に意欲的に取り組んでいる生徒の割合	90%	85%	93%	103%	A	(4)図書館では季節ごとの飾りつけやテーマ別展示に取り組み、リクエストへの対応もできた。また、図書委員が図書館だよりの記事を担当し、クリスマスコンサートも協力して実施した。朝読書は校内全体の支援を呼びかけたい。	生徒アンケート③		
	専門高校の特色を生かす	商業・情報教育の推進	商業	特色ある商業・情報教育の推進 ①充実した施設・設備を活かした先進的な授業の実施 ②資格取得・検定合格のための指導の充実 ③情報パートの内容充実とビジネスマナー教育の推進	(5)県商研表彰生徒(1級2種目以上取得等)の割合が3年生の20%以上	100%	斜線	35%	35%	C	(5)7名が2種目以上1級合格したが、第3学年の1級合格者総数が昨年度27名から20名へと大きく減少したことに伴い評価値も低下した。来年度の教育課程は上位級が目指しやすいよう変更する。また、全校を挙げて第2学年から1級合格を目指す取組みを充実させたい。	校内統計		
					(6)情報処理国家試験の合格人数5名以上	100%	120%	60%	60%	C	(6)ITパスポート試験を4月に2年生9名が受験し、3名合格した。今後も、指導を充実させるとともに国家試験の意義を周知徹底し、より多くの生徒に受験させたい。	校内統計		
					(7)情報パートでの経験は自分にとって役立つと感じた生徒の割合	90%	89%	91%	101%	A	(7)生徒の95%が来年度も是非やりたいと答えた。さらに充実した情報パートにしていきたい。	生徒アンケート④		
豊かな人間性の育成	基本的な生活習慣の確立と学校生活の充実を図る	望ましい生活習慣の育成	教務 生徒 商業	基本的な生活習慣を育成する指導 ①個々の登校状況を把握し、全教員が連携した欠席・遅刻の防止(週2回、月5回以上の遅刻を目安に個別指導実施) ②挨拶の励行(立ち止まって挨拶するよう指導) ③計画的指導にもとづく頭髪・服装規定の遵守、徹底 ④礼法指導の徹底(ウィークスタートの実施)	(8)毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%	98%	99%	100%	A	(8)目標は達成できたが、今後も学校と家庭の連携を密にしなが、指導していく必要がある。	校内統計	A ・JS(情報サポーター)制度で、上級生が下級生にアドバイス等を行ってサポートしていく仕組みは良いと思うので、今後より有効な取組となるよう工夫してほしい	
					(9)遅刻をしない生徒の割合	99%	98%	99%	100%	A	(9)生徒指導部による遅刻対策強化の効果もあって、3年生も昨年度と比べると遅刻が減少した。来年度はさらに減少するよう指導を継続していきたい。	校内統計		
					(10)身だしなみをきちんと整えている生徒の割合	95%	81%	94%	99%	B	(10)服装規定を、年度途中からシャツをしまふ形に変更し、概ね正しく身だしなみを整えられるようになった。しかし、全校で見るとまだ満足できるレベルに到達していないため、今後も全教員が共通認識のもと、計画的に指導していく必要がある。	校内統計		
					(11)自分の居場所があり、人から認められていると感じている生徒(アンケートQUで学級生活満足群に属する生徒)の割合が、52%以上<前年度の本校の値+5%>	100%	斜線	89%	89%	B	(11)全国平均は上回っているものの、前年度からは若干減少しており、頑張りを認めあえる雰囲気やクラス経営など、次年度以降も継続的に組織的な取り組みを行う必要がある。	アンケートQU結果 本校 46.1% 全国 36.0%		
	人権教育の充実を図る	人権・同和教育の推進	総務	人権・同和教育の推進 ①生徒・保護者向けの研修機会の充実と、教職員研修の実施 ②校内外の各機関との連携調整と修学支援制度の活用推進	(12)周囲への配慮が行動レベルで実行できている生徒(アンケートQUの結果)の割合が、39%以上<前年度の本校の値+5%>	100%	斜線	88%	88%	B	(12)評価の目標値を大きく上げたため、達成度はBとなった。しかし、毎年続けて全国平均値を超えていることも事実であり、今後一層、周囲への配慮ができる生徒の数を増やしていきたい。	アンケートQU結果 本校 34.2% 全国 33.1%	A ・JS(情報サポーター)制度で、学年が上がるにつれて、より望ましい意識や行動を身につけた生徒の割合が増えているようで、素晴らしい	
					(13)周囲と能動的に関わることができる生徒(アンケートQUの結果)の割合が、36%以上<前年度の本校の値+5%>	100%	斜線	86%	86%	B	(13)目標値を上げたため達成度はBだが、「情報祭」や「情報パート」等の大きな行事に、各クラスとも例年以上に団結して取り組んでいた。こうした雰囲気作りを今後も継続していきたい。	アンケートQU結果 本校 31.1% 全国 29.4%		
					(14)人権に関わる講演会やLHRの活動が自分を見つめ直す機会になったと感じている生徒の割合	75%	74%	79%	105%	A	(14)目標値を上げたにも関わらず、それを上回る良い結果だった。引き続き来年度も、講演会講師の選定やLHR活動の内容を工夫し、生徒により良い機会を提供していきたい。	生徒アンケート⑦		

自己評価 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:(できていない)<80 ●達成度は、25年度目標値に対する平成26年1月末の評価値で算出

評価計画						自己評価					学校関係者評価				
学校が果たす役割	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	25年度目標値	24年度	25年度	達成度	評価	結果(課題)と改善方策について	評価値の元データ	評価	コメント	
							評価値	評価値							
進路保障	進路指導の充実・強化	進路指導の充実及び定着指導の強化	進路商業	望ましい勤労観・職業観の育成 ①LHR等を利用した計画的な進路指導の実施	(15)在学中に進路決定する生徒の割合	100%	86%	90%	90%	B	(15)企業・学校をしっかりと比較検討して受験することができた。第1志望の企業・学校に合格できた生徒の割合は、昨年より向上した。ただ、就業意識が高いとは言えない生徒が少なからず存在しており、今後進路決定率をさらに上げるためには、生徒だけでなく保護者の進路意識の向上も求められていると感じる。	校内統計	B	・「アルバイト・フリーターでよい」という考え方の生徒がいて、家庭も認めているとなると難しい問題である ・卒業生を招いて、生徒達に社会人の体験談を聞かせる機会を設けてやると、身近に感じて、得られるものがあるのではないか	
				②企業見学、インターンシップの実施 ③外部講師を招いた進路ガイダンスの実施 ④ハローワーク、県関係機関等との連携強化 ⑤進路面談の積極的実施と、進路情報の確実な提供 ⑥各種適性検査や学力模試の実施と活用	(16)進路に関する学習や適切な進路指導を受けていると感じている生徒の割合	90%	88%	83%	92%	B	(16)1年生の企業見学の方法など、従来より工夫して実施した。3月に予定している会社説明会も、生徒には大きな刺激になると考える。今後、各学年集会等で進路指導の立場から話す機会を増やしたり、進路希望調査では希望企業・学校を必ず具体的に書かせるなどして、生徒とともに進路について考える機会を増やしたい。	生徒アンケート⑭と⑮			
たくましく生きるための健康・体力	健康教育の推進	安全で清潔な環境作り	保健	校内美化活動の推進 ①清掃指導の徹底 ②安全点検の定期実施 ③教員及び生徒(委員)による校内巡視の実施 ④ゴミの分別収集の徹底	(17)真面目に掃除に取り組んでいる生徒の割合	90%	87%	91%	101%	A	(17)とても真面目な態度で取り組むことができた。取り掛かりも早くなってきている。また、定期的に安全点検を行ったが、校舎内での破損個所もあまりなく、良好な状態が維持されている。	生徒アンケート⑧	A	・全体に良好だと思われるので、引き続きこのような取り組みを徹底してほしい ・島根県自体が、施設率が非常に低い地域であると言われているが、自転車点検を積極的に実施され、施設率アップに取り組まれている姿勢に敬服する ・例えば原発事故のような重大な災害が発生した場合に、学校から生徒、保護者へ迅速に連絡できる方法、手段が確保できるよう検討してほしい	
				保健についての啓発 ①ハンカチ検査の実施(週1回) ②「保健だより」・「壁新聞」による意識啓発	(18)ハンカチを所持している生徒の割合	80%	76%	78%	98%	B	(18)検査実施後、グラフなどで結果を知らせて、次の目標を持たせたり、所持することの重要性を伝えた。目標にはわずかに届かなかった。	校内統計			B
				教育相談体制の充実 ①スクールカウンセラーによる教育相談の実施(月1, 2回) ②「明るい学校推進委員会」の定期実施	(19)年間欠席日数が30日未満の生徒の割合	99%	98%	99%	100%	A	(19)今年度はスクールカウンセラー来校回数が多くなり、利用者も多かった。「明るい学校推進委員会」は、年度当初に開催日を決め、全て実施した。欠席者は例年より減少し、目標はクリアできた。しかし、悩みを持って保健室に来る生徒は変わらずいるため、今後もスクールカウンセラーも活用して支援等に努めたい。	校内統計			A
				部活動への積極的参加の促進 ①部活動紹介や部活動体験期間の内容の充実 ②外部講師の招聘	(20)部活動に入っている生徒の割合	85%	82%	84%	99%	B	(20)魅力的な部活動の推進と、そのための生徒指導部としての支援(部活動体験期間の取り組みの充実、未加入者への加入の勧めなど加入率アップの方策)を両輪として、継続して取り組んでいきたい。また、来年度からは部活動の新規設立を行うなどの具体的な対策も講じている。	校内統計			A
				安全に関する自己管理意識の高揚 ①街頭指導(春・秋)の実施 ②貴重品の管理と自転車の施錠の徹底 ③自転車点検の実施(年2回) ④交通安全指導の実施(交通マナーの遵守) ⑤不審者情報等の情報提供、周知徹底	(21)自転車のマナーを守り、事故防止につとめている生徒の割合	95%	92%	97%	102%	A	(21)地域の方からのお褒めの言葉や、苦情を聞き、徐々にマナーは向上しているように感じるが、二人乗りや傘差し、並進など、指導が必要な場面が多々ある。警察と連携してマナーアップの取り組みを進めていく。	生徒アンケート⑨			B
(22)自転車の施錠率	95%	89%	72%	76%	C	(22)昨年度までは年に1回、予告して検査を行っていたが、今年度は12月までに予告無しで3回、鍵かけを含めた整備についての指導を丁寧に行なったため、評価値は低くなった。しかし、実施のたびに施錠率は向上しているため、今後も継続して指導し、良い習慣を身につけさせたい。	校内統計								
信頼される学校	地域と連携し、地域に開かれた学校づくりの推進	保護者、地域、中学校との連携の強化・深化	教務	教科指導力の向上と分かりやすい授業の工夫 ①公開授業・研究授業の実施と互見による教科指導力の向上 ②シラバスに基づいた入念な教材研究と指導	(23)公開授業、授業参観を3回以上行った教員の割合	100%	100%	100%	100%	A	(23)設定する公開授業期間を2週間ずつにして、各教員が授業公開や参観をし易くした。教科の枠を超えて授業を見学し合うことは、各教員が自らの授業の見直し、向上させるうえで非常に有効であり、継続していきたい。	校内統計	A	・入学志望者数が増加していることから、取り組みの成果は出ていると思う ・インターネットのメールやソーシャルネットワークサービスを活用して情報発信していくこと等も検討してほしい ・ボランティアに参加してもらうことは地域とのつながりが深まり非常に良いことであるが、事故発生時の責任の所在など、地域と学校で検討すべき課題があるので、一緒に相談しながら進めていってほしい。	
				PTA活動の一層の活性化 ①「PTA会報」等の発行 ②HP・携帯電話用HPや文書による学校からの情報提供充実 ③各種研修会等の充実	(24)PTA会報、学年だより等を読んでいる保護者の割合	90%	80%	81%	90%	B	(24)昨年度よりわずかに向上したが、引き続き達成度100%を目指し、PTA組織や各学年会の協力を得ながら、一層の内容の充実を図りたい。また、情報提供の方法にも工夫をしていく。	保護者アンケート⑧と⑨			
				地域との連携 ①地域ボランティアへの積極的な参加の奨励 ②安来市主催の催しやその他諸地域の活動への参加	(25)地域ボランティアに参加している生徒の割合	40%	32%	39%	98%	B	(25)3年生を中心にボランティアに参加してくれた。地域で頼りにされていることを知り、ボランティアにより得られるものを伝え、一人でも多くの参加が増えるよう、情報提供のあり方も検討していきたい。	校内統計			
			総務	中学校との連携 ①出前授業、招待授業の実施 ②オープンキャンパス実施 ③中高連絡会の充実と学校説明会への積極的参加 ④部活動での連携 ⑤小中学校教員対象研修の実施 ⑥合同教科部会、合同公開授業の実施	(26)連携ができたと感じている教職員の割合	70%	52%	75%	107%	A	(26)前年度より大幅に向上し、目標値を超えることができた。中高合同の授業研究が各教科で実施され、出前事業や招待授業も実施できた。来年度もこうした取組を積極的に推進していきたい。	教員アンケート⑯			